

1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

グループホーム CHIAKI ほおずき 姫路高岡

- 評価実施期間 平成 18 年 1 月 16 日 から 18 年 6 月 30 日
 ○訪問調査日 平成 18 年 2 月 16 日
 ○評価機関名 特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
- 評価調査者 No.G04028(学識経験者・心理士・キャリアコンサルタント)
 No.G04029(社会福祉士・福祉住環境コーディネータ
 障害者就労支援指導者)
- グループホーム所在地 兵庫県姫路市山吹1丁目3番25
 ○開設年月日 平成 15 年 7 月 1 日
 ○定員 (2) ユニット (18) 名

○第三者評価結果

◇全体を通して

【法人全体として…】

●「CHIAKIほおずき」の法人本部を姫路市に置き、県内8ホームを展開している。各ホーム施設長会議や合同勉強会も実施され、複数ホーム経営にありがちな「画一化されたケア内容」ではなく、各施設長をトップに、理念に基づいた特色のあるケアを工夫・努力し、それぞれの施設カラーを出すことができている。「組織力としての合理性・機能性を活かしながら、ケアには各事業所の個性を重視する」という理想的形態である。本部による職員採用、新人研修、社員管理や、人事考課制度の導入など人材育成体制も充実しており、現場の職員が入居者へのサービスに注力できる環境が整っている。

●今後も、人材育成のほか、法人理念のもとに、各グループホーム内で具体的にこなされた取り組みを本部組織の中でもより強化し、それらをケアサービスに活かしてゆけるよう望む。

【CHIAKIほおずき姫路高岡は…】

●JR姫新線「播磨高岡」駅の北約1.3km、姫路駅近郊の新興住宅地にある。向いに高丘中学校、裏に高岳神社、近くにはホームセンターや生協、コンビニ等があり、日常生活に不便はない。周辺には田畑や田舎道も多く見られ、裏にある神社は格好の散歩コースでもある。

●運営面、生活空間づくりにおいての要改善点はない。家族アンケートの回収率も高く、アンケート結果は肯定的な回答が非常に多くなっている。特筆すべきは、尊厳、プライバシー、金銭管理、に関しては全入居がこれを良しとする旨の回答であり、家族とのコミュニケーション関係でもほとんどが同様に回答されるなど、職員全てにおいて、入居者およびその家族も含めて質の高い認知症ケアを実践できている。

●近隣住民を主としたボランティアやヘルパー実習生、見学者等の受入れなど、認知症ケアのノウハウの地域還元を積極的に行なっており、また、これにより外部の眼によるチェック機能が自然に働くことになっている。地域社会において存在意義が深まってゆくホームであり、今後も、近隣自治会や住民等を対象とした定期的勉強会を開催するなどの大いなる取り組みに期待したい。

◇分野・領域別

I 運営理念

番号	項 目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有	○	
2	権利・義務の明示	○	
3	運営理念等の啓発	○	
特記事項			

【要改善点は特になし】

- 「えみがこぼれる家庭…それが私たちのほこりです。」が法人の基本理念。
- 事業所目標は「初心を忘れず介護の基本」「目配り、気配り、事故はゼロ」に設定し、全職員でこれに取り組んでいる。
- 法人の取り組みを紹介するパンフレット、ホームページを作成することで運営理念等の啓発を行い、また、ホームとしては「高岡便り」を毎月発行し、地域行事や慣わし、散歩なども行い、これらを通じたふれあいによる地域理解に努めている。

II 生活空間づくり

番号	項 目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり	○	
5	共用空間における居場所の確保	○	
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
7	身体機能の低下を補う配慮	○	
8	場所間違い等の防止策	○	
9	生活空間としての環境の配慮	○	

特記事項

【要改善点は特になし】

- 玄関の両側にはプランターに植えられた季節の花を飾り、建物の周りの花木、共用空間のあちこちに置かれる花瓶・鉢植え・観葉植物が心を和ませる。菜園では季節野菜も育てている。リビング壁面には入居者の作品やイベント時の写真、スタッフの写真が飾られ、温かな雰囲気づくりもできている。
- 床はフルフラットで車椅子の通るスペースが十分確保され、手すりが要所に設置されている。リビングには、机のほかにソファや腰掛けが置かれ、手すり代わりとする工夫がなされている。
- リビングの一面は一段高くなった6畳ほどの畳スペースで、冬場には堀コタツになり、また、床の一部に畳を置き、一時的な座敷として使われている。
- 各居室の入口に飾られた表札は、手書きのもので、入居者にとってわかりやすい。

Ⅲ ケアサービス

番号	項 目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画	○	
11	介護計画の見直し	○	
12	個別の記録	○	
13	職員間での確実な情報共有	○	
14	チームケアのための会議	○	
15	入居者一人ひとりの尊重	○	
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア	○	
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援		○
18	一人であることへの配慮	○	
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫	○	
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた課題	○	
21	個別の栄養摂取状況の把握		○
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援	○	
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮	○	
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮	○	
25	理美容院の利用支援		○
26	プライドを大切にした整容の支援	○	
27	安眠の支援	○	
28	金銭管理の支援	○	
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援	○	
30	医療関係者への相談	○	
31	定期健康診断の支援	○	
32	心身機能の維持	○	
33	トラブルへの対応	○	
34	口腔内の清潔保持	○	
35	服薬の支援	○	
36	緊急時の手当		○
37	感染症対策	○	
38	ホーム内に閉じこもらない生活の支援	○	
39	家族の訪問支援	○	

特記事項

- 各種の必要な書類は備えられており、各職員は定められたルール下でそれらの書類を日々確認した上で、入居者のそのときどきの状況を把握し、これを個々のケアに活かしている。また、全体職員会議も月1回開催され、情報交換もできている。
- 職員は入居者それぞれの希望表出に努力しているが、職員の声かけに遠慮し、うまく表出できない入居者もいるため、そのきっかけを探る努力に期待したい。
- 入居者個別の水分摂取量については、概ね把握できているが、カロリー摂取量が不明であり、勉強会の開催とともに、栄養バランスを数値として把握・記録することが望ましい。
- 入居者の役割(調理、後片付け、畑仕事、花の水やり、洗濯物たたみ等)は数多くあり、職員と協働がなされている。また、季節の慣わしや地域交流会にも一緒に参加するようにしている。
- 緊急時手当については、勉強会を開催し周知されているが、やや不安を持っている職員もあり、定期的訓練や協力医に講習会開催の協力を仰ぐなど、その改善に努めて欲しい。
- 日々の買物や散歩、地域行事への参加のほか、家族も参加の小旅行も行なうなど、ホームと家族との信頼関係も上手く築けている。

Ⅳ 運営体制

番号	項 目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働	○	
41	入居者の状態に応じた職員の確保	○	
42	継続的な研修の受講	○	
43	ストレスの解消策の実施	○	
44	退居の支援	○	
45	ホーム内の衛生管理	○	
46	事故の報告書と活用	○	
47	苦情への的確で迅速な対応	○	
48	家族とのコミュニケーション	○	
49	地域の人達との交流の促進	○	
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ	○	
51	ホーム機能の地域への還元	○	

特記事項

【要改善点は特になし】

- 法人本部を中心に据えながら、各ホームの施設長のリーダーシップのもと、地域色豊かな組織運営がなされている。職員の個人目標は「マイ・チャレンジ」に設定され、半年に一度、面談の中で評価・再設定がなされる。
- 研修や勉強会は多く実施され、採用時の新人職員向研修、デイサービスとの合同勉強会、ホーム単独での勉強会…と、年間を通して15回以上開催されている。法人として施設長研修が2カ月毎、主任研修が4カ月毎、人事考課研修が3カ月毎に、そのほか、生活相談員勉強会、計画作成担当者勉強会なども行われる。
- 施設長、主任、計画作成担当者などがスーパーバイザーの役割を果たしている。法人本部として個人年間目標を設定し、面談をもって業務上の相談機会を確保している。
- 相談や苦情を積極的に受ける体制ができおり、家族アンケートでは全ての回答者がホーム窓口を知っていて、ほとんどの家族が意見や要望・相談をしたことがあると回答があるなど、家族側から連絡や要望を伝えやすい環境が整っている。
- 退去時には、家族やケアマネージャーを交えて話し合いの場を持ち、本人および家族の意向を聴きながら退去先選定を行い、退去後の相談にも応じている。法人内の他のグループホームへ移ることができるのも特長。
- 毎月、写真を中心とした「高岡便り」を発行し、最近の様子やお知らせ事項、イベント案内がされている。また、家族交流会は年2回開催され、入居者・家族・職員たちの協働が微笑ましい。そうめん流しの催しにも、18家族中16家族が集まり、常日頃からのコミュニケーションの大切さを実感する。

2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
I 運営理念 1. 運営理念の明確化						
1	1	○			「えみがこぼれる家庭…それが私たちのほこりです」の基本理念が掲げられている。運営方針については、入居者や職員が常によく見える共有スペースに分かりやすい言葉を用いて掲げられ、職員は運営方針に基づいて、それぞれ個人目標を設定している。	管理者は月に一度、主任は2ヶ月に一度、一般職員は3ヶ月に一度の本社研修を開催している。
2	3	○			「契約書」「重要事項説明書」に明記されており、「個人情報の使用に関する同意書」も含めて、入居者及び家族等に説明したうえで同意、署名を得ている。	
2. 運営理念の啓発						
3	4	○			法人としてパンフレット、ホームページを作成し、運営理念の啓発を行っている。またホームとして「高岡便り」を毎月発行している。地域行事や慣わし、散歩などを通してふれあいの中から、地域理解への取組みに力を入れている。	事業所目標は「初心を忘れず介護の基本」「目配り、気配り、事故はゼロ」に設定している。
I 運営理念 3項目中 計		3	0			
II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり						
4	5	○			玄関や建物の周りには花・木が植えられ、菜園では季節野菜を育てている。プランターに植えられた季節の花が玄関の両側に置かれ、共用空間のあちらこちらに花瓶や鉢植え、観葉植物が置かれている。リビング壁面には入居者の作品やイベント時の写真、スタッフの写真が飾られ、安心できる雰囲気になっている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき ている	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
5	6	○			リビングの一面は一段高くなった6畳ほどの畳スペースで、冬場には堀コタツになる。楽に上り降りができ、座敷に座ったり寝たり自由にできる。リビングには机のほかにソファや一部は畳が置かれ、庭には花や木、菜園があり、自由に過せる空間が確保されている。	
6	7	○			使い慣れた家具や調度品、写真や作品等を自由に持ち込み、安心して過ごせる自分自身の空間作りができています。仏壇、三面鏡、裁縫道具、アルバム、作品(手まり、絵)などが置かれていた。	
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり						
7	9	○			床はフルフラットで車椅子の通るスペースが十分確保され、手すりが要所に設置されている。また、リビングにはソファや腰掛けが置かれ、手すり以外にも手がかりとなるよう工夫されている。	
8	11	○			各居室前には手書きの表札と共に花が飾られている。トイレや浴室はわかりやすく表示され、トイレへの誘導マークが要所にある。	
9	12	○			夏場は葎簾を利用するなど、光の強さや換気、エアコンの温度調節を適切に行なっている。リビングにはテレビやCDプレイヤーがあり、適度なBGMが流されている。	
Ⅱ 生活空間づくり 6項目中		計	6	0		

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント						
10	15	○			入居者本人や家族等とのコミュニケーションの中から、本人の特性や意向を取り入れ、介護計画を作成している。しかし職員は、現状の書式では問題指向型のため、十分でないと感じており、センター方式を検討中である。	「情報カード」に入居者の基本情報が集約されている。
11	16	○			短期目標が3ヶ月、長期目標が6ヶ月に設定され、定期的に見直しを行ない、家族と面会を実施、開示している。また、状態の変化があった時には随時カンファレンスを行ない、介護計画の見直しがされている。	
12	17	○			日々の入居者の様子は、それぞれの言動を中心に「サービス経過」記録用紙に時系列的に細かく記載されている。また「ご家族様との連絡記録」用紙があり個別ファイルにまとめられている。	
13	18	○			業務日誌、サービス経過、夜勤日誌等をもとに申し送りがなされ、カンファレンスやミーティング時にケアプランの確認を行いながら確実な情報共有を行なっている。	
14	19	○			月1回の全体職員会議が開催されているが、緊急案件については、その都度カンファレンスを行ない、意見交換がなされ、カンファレンスシートに記録されている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
2. ホーム内でのくらしの支援(1) 介護の基本の実行						
15	20	○			職員は入居者一人ひとりの性格や行動パターンを把握し、穏やかに接し、声掛けの際には、その人に適した会話と冷静な態度を心がけている。	
16	23	○			情報カードを活用しながら入居者それぞれの経験や趣味、生活暦を把握し、それらをホーム内での役割分担(畑、園芸、調理、洗濯物たたみ等)として、わかりやすい形で実践している。	
17	25	○			職員は、入居者の表情や話す調子を観察しながら話を聴き、希望の表出に努力しているが、職員の声かけに遠慮し、うまく表出できない入居者もいる。	入居者の人生の中で一番楽しくいきいきしていた頃の話をするなどキーワードを探し出すような取組みに期待したい。
18	27	○			入居者の心身状態を確認しながら、その人の生活暦等から活躍できる場面作りを行ない、自然な形でその中に入ることができるように支援し、職員と協働している。	
19	29	○			併設するデイサービス職員と連携を取りながら、日中は玄関を開放しているが、夜間は防犯上施錠している。デイサービス職員が少ない場合は16時頃から施錠することもある。	

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	○			旬の野菜や魚を取り入れ、入居者の希望を聞きながら体調や身体機能に合わせた調理を行い、買物、準備、味付け、盛り付け、配膳、片付けなどを入居者と協働している。軽い物は近隣商店に、重いものは車で10分程の所にある業務スーパーへ買出しに行っている。	ご飯量の少ない入居者には、小さめの茶碗に、こんもりと盛り付けたり、糖尿病のある方には実物大の量を冷蔵庫に貼っておくなど、視覚的にも工夫が見られる。
21	34	○			できるだけ偏りの無い献立としているが、入居者個別のカロリー摂取量は不明である。水分摂取量については、おおまかに把握している。	職員からの要望もあり、カロリーに関する勉強会の開催とともに、栄養バランスを数値的に把握し、記録しておくことが望ましい。
22	36	○			職員は観察、声かけ等を行いながら入居者と同じテーブルで食事を行い、スムーズに食がすすむよう食べこぼし等にはさりげなくサポートしている。また、食事時には適当なBGMがかかっている。	
2) 排泄						
23	37	○			職員は、個々の排泄パターンを大まかに把握しており、見守りを中心とし、誘導が必要な方には夜間を含め、支援をしている。また、下着・おむつ・パッドは体調によって使い分けしている。	
3) 入浴						
24	41	○			入浴は夕刻までなら毎日でも入れる体制にあり、入居者の自己選択である。毎朝バイタルチェックを行ない、入浴前には様子を目視確認した上、入浴状態と更衣状態を「入浴チェック表」に記録している。	

項目番号 第三者 自己		項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4) 整容							
25	43	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)		○		訪問理美容サービスを受けていたが、入居者全員が同じような髪型になりつつあったため、別の理容師に変更しているところである。	各入居者の個性を引き出すような支援が求められる。また、地域交流も兼ねて近隣理美容院の利用支援にも期待したい。
26	44	○ブライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			身の回りの事が難しい入居者に対して、特に職員が気を配り、声掛けや誘導によってさりげなくカバーしている。また服装選びには、職員が協働でタンスの中から選び、外出時には上着等で調整するような支援をしている。	
5) 睡眠・休息							
27	47	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			職員は、入居者それぞれの入床・起床時間を把握している。日中はラジオ体操や“はばたん(国体のキャラクター)体操”、保健センターからビデオを借りて介護予防体操等、身体を動かすことを重視し、できるだけ運動を取り入れた1日の生活リズムづくりを行なっている。	
(3) 生活支援							
28	51	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、家族等とも相談して可能な限り日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。ホームが代行管理している場合は定期的に家族に出納状況を報告している。	○			預かり金は1万円程度とし、個別に金庫に保管。買物には職員が同行し、見守り支援をしている。レシートの保管とともに、入居者別に金銭出納帳に記録し、定期的に家族等に報告している。	
(4) ホーム内生活拡充支援							
29	53	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			入居者の生活暦からそれぞれに役割を見出せるよう支援している。例えば、調理、後片付け、畑仕事、花の水やり、洗濯物たたみ、などで、職員とともに協働している。また、季節の慣わしや地域交流会に参加している。	

項目番号 第三者自己	項 目	でき ている	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(5) 医療機関の受診等の支援						
30	55	○			ホームの協力医療機関によって、いつでも対応していただくことができ、協力医療機関以外にも指示や助言をもらえる医師を確保している。また、往診可能な医院も確保している。	協力医療機関は 内科…医療法人社団綱島会厚生病院 歯科…段歯科医院
31	61	○			定期健康診断は協力医療機関やかかりつけ医で年に1～2度レントゲン撮影を含めて検査を受け、結果を記録している。	
(6) 心身の機能回復に向けた支援						
32	63	○			職員は入居者それぞれの精神症状を大まかに把握しており、日常生活に役割を取り入れながら、買物、散歩、体操、口腔訓練といった運動も取り入れることによって心身機能の低下防止策を実践している。	
(7) 入居者同士の交流支援						
33	65	○			職員は、トラブルの未然防止に努めているが、トラブルがあった場合は、職員が中に入り、意図的に場面を変える等の対応を行なっている。しかし、職員だけの対応が難しい場合は、少し距離をおき、家族の協力を得ることもある。	
(8) 健康管理						
34	67	○			声かけにより、食後のうがい、入れ歯の手入れを日常的に実施している。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35	70 ○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			薬管理マニュアルがあり、入居者別の袋に朝・昼・夜の色分けラインをつけ、視覚的理解がしやすいように工夫されている。また、飲み終えるまで確認を行なっている。服薬内容に変更があった場合は、徹底した申し送りを行なっている。	
36	72 ○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		救急急変時マニュアルがあり、緊急時手当法等の勉強会を開催し、職員に周知されているが、不安に思っている職員が多い。	定期的に訓練を繰り返すことと、協力医に講習会開催の協力を仰ぐなど、職員の不安解消に努めて欲しい。
37	73 ○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症マニュアルが整備され、勉強会の開催とともに対応方法が徹底されている。	
3. 入居者の地域での生活の支援						
38	77 ○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			日々の買物や散歩に加え、地域開催行事への参加、外食、毎月の外出レクリエーションなどがある。また、小旅行では家族の協力を得つつ、姫路城へ行ったり、菖蒲を見に行ったりしている。	
4. 入居者と家族との交流支援						
39	81 ○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ホーム主催の各種行事(小旅行や季節行事)において、家族のお手伝いを募るなど、家族が訪問しやすい仕掛け作りを行っている。また、年に1回外部講演会を開催している。家族等の訪問時は、できるだけ落ち着いて一緒に過せるよう、職員の配慮が見られる。	
Ⅲ ケアサービス 30項目中 計		26	4			

項目番号 第三者 自己		項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
IV 運営体制 1. 事業の統合性							
40	83	○法人代表者、管理者、職員の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、職員の意見も反映させながら共に運営に取り組んでいる。	○			法人本部を中心に組織運営がなされており、各ホームの施設長をトップに、理念に基づいた特色のあるケアを工夫、努力し、それぞれのカラーを出すことができている。個人目標は「マイ・チャレンジ」に設定されており、上司とのコミュニケーションツールとして、半年に一度、面談の中で評価・再設定がなされている。	法人代表が定期的にホームを訪れている。
2. 職員の確保・育成							
41	87	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の生活ペースに合わせたローテーションを中心に、職員の研修等も組み入れた勤務ローテーションを組んでいる。	
42	89	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			採用時に新人職員向け研修があり、偶数月にデイサービスとの合同勉強会が奇数月にはホーム単独での勉強会が、年間を通して15回以上開催されている。	法人として施設長研修が2ヶ月に1度、主任研修が4ヶ月に1度、人事考課研修が3ヶ月に1度、その他、生活相談員勉強会、計画作成担当者勉強会などが開かれている。
43	91	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			職場内で定期的、計画的に勉強会が開催され、施設長、主任、計画作成担当者などがスーパーバイザーの役割をしている。法人として個人年間目標を設定し、その面談を通して業務上の相談機会を確保している。職員親睦会もある。	
44	95	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			家族やケアマネージャーを交えて話し合いの場を持ち、本人ニーズおよび家族ニーズを反映しながら退去先の選定を行っている。また、退去後の相談にも応じている。	法人ネットワークを活用して、法人内の他のグループホームへ移ることができるになっている。

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4. 衛生・安全管理						
45	98	○			手洗いやうがいを励行し、台所用品は分担を決め、除菌・漂白等を行っている。また、注意を要する物品については、保管場所を定め、鍵をかけ、管理方法を決め、実行している。	
46	102	○			事故報告書、緊急時対応マニュアル、緊急連絡網が整備されている。また、ヒヤリハット活動は、新人職員を中心に月の提案目標件数を立てている。	
6. 相談・苦情への対応						
47	106	○			重要事項説明書には、ホーム・行政・県の苦情相談窓口が表記され、ホーム内にも苦情対応窓口が掲示され、相談や苦情を積極的に受ける体制作りができています。	家族アンケートでは全ての回答者がホーム窓口を知っていて、ほとんどの家族が、意見や要望、相談をしたことがあると回答し、家族側から積極的に伝えやすい環境作りが実践されている。
7. ホームと家族との交流						
48	107	○			毎月「高岡便り」を発行し、写真を中心に、入居者の最近の様子やお知らせ事項、イベント案内がされている。また、家族交流会が年2回開催され、入居者・家族・職員の協働が見られる。そうめん流しにおいては、16家族が集結し、普段からのコミュニケーションの良さが窺える。	
8. ホームと地域との交流						
49	112	○			地域住民のボランティアとして、ハンドベル、劇、紙芝居、話し相手、活け花などの受か入れを実践し、入居者等は地域の清掃活動等に出席するなど、地域住民との交流が行なわれている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
50	114	○			地域住民や出入り業者、消防、小学生等が気軽に立ち寄って頂けるように声かけをし、周辺地域の諸施設から理解を拡げる働きかけを行っている。また、小学校の総合学習の受け入れも行なっている。	
51	115	○			ボランティア、外部ヘルパー実習生や法人内部実習生の受け入れ、見学者等の受入れを行ない、認知症ケアの知識や技術を地域に還元している。今後も更に地域に対する開放の実践を期待したい。	近隣自治会や住民等を対象とした定期的勉強会を開催するなど、施設のメリットを上手に利用した積極的開放の仕掛け作りと実践に期待したい。
IV 運営体制 12項目中 計		12	0			

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。